

平成10年度試験研究成果

区分	普及	題名	スターチス・シヌアータ栄養系品種の挿し芽苗育成法		
〔要約〕スターチス・シヌアータは長さ8 cm程度、葉数6枚程度、クラウン部の厚さ5 mm程度に調整した穂をパーライト、細粒鹿沼土、川砂に挿すことによって高い発根率が得られる。発根の難易には品種間差があり、発根しやすい品種では70%程度の発根率で良質苗が得られる。					
キーワード	スターチス	栄養系品種	挿し芽苗	園芸畑作部	花き研究室

1. 背景とねらい

スターチス・シヌアータは暖地を中心に培養苗利用の作型が多くなってきている。実生苗に比較して培養苗は、花色、花穂の大きさ、草姿など形質的に優れており、開花揃いも良いため、実生系品種に比較すると出荷労力などの軽減を図ることができる。しかし、市販の品種は種苗費が高いことが問題であり、収穫本数の確保が難しい本県のような寒冷地では導入があまり進んでいない。このような状況の中、本県独自のオリジナル品種が開発され、種苗費の低減を図ることのできる技術が望まれていた。

2. 技術の内容

- (1) 株を掘り上げ、腋芽を株分けするように切り分け、展開葉6枚程度、長さ8 cm程度に調整したものを挿し穂とする。また、クラウン部分はぎりぎりまで切り詰めず、厚さ5 mm程度は残すようにする。(表1)
- (2) 培土にはパーライト、細粒鹿沼土、川砂を用いる。(表2)
- (3) 発根の難易には品種間差があり、NS3、NS12、NS14は発根しやすい品種である。発根しやすい品種は発根剤がなくても70%程度の完全発根率が得られる。(表3)

3. 普及上の留意事項

- (1) 挿し穂の調整時には、枯葉は必ず除去するようにする。抽台茎は除去するのが望ましいが、抽台茎を無理に除去しようとするとう穂がバラバラになる場合もあるので注意する。抽台茎が腐っている場合は、必ず除去するか、または使用しないようにする。
- (2) 挿し穂の基部を発根剤処理することにより安定した発根率が得られる。剤の種類は粉剤が良い。処理することによってNS3では80%程度、NS1では65%程度の完全発根率が得られる。(表4)
- (3) 挿し芽後は十分にかん水を行う。また、毎日かん水を行い、天候を見ながら日中に葉水などを行う。
- (4) 最低夜温5 程度でも発根するが、温度確保のため、ビニルトンネル被覆を行うと、トンネル内の湿度が上昇し、灰色かび病が発生する可能性があることから、被覆する場合は吸湿性のあるPVA系の資材を用いるのが望ましい。病気の発生が見られたら適宜薬剤散布を行う。
- (5) 1ヶ月程度で発根が揃うので、2.5号ポットなどに鉢上げし、養成を行う。
- (6) ウイルスに感染している株は栽培中に確実に撤去し、焼却処分とする。

4. 技術の適応地帯

県下全域

5. 当該事項に係る試験研究課題

- 3-1-(1)-ウー(エ) 地帯別気象特性を活かした花き生産の長期出荷技術
b スターチスの冷涼気象要因と地帯別生育特性の解明及び秋冬出し高品質生産技術の確立

6. 参考文献・資料

平成9年度 岩手県農業研究センター 花き研究室試験成績書
スターチスの新品種「サザンピンク」とその栽培技術 鹿児島県農試 徳之島野菜花き研究室

7. 試験成績の概要（具体的なデータ）

表1 クラウンの形状が発根に及ぼす影響（平成10年度）

品種名	処理区	挿し芽時の状態		完全発根 個体率 ¹⁾ (%)	不完全発根 個体率 ²⁾ (%)	未発根 個体率 ³⁾ (%)	枯死 個体率 ⁴⁾ (%)
		挿し穂長 (cm)	葉数 (枚)				
NS1	クラウン部あり	8.1	7.7	60.0	13.3	16.7	10.0
	クラウン部なし ⁵⁾	7.9	7.7	20.0	23.3	53.3	3.3

〔栽培概要〕

発根剤：オキシベロン（成分：インドール酪酸）粉剤処理

挿し芽日：NS3 10月23日、NS1 10月26日

挿し芽培土：パーライト使用

温度管理：最低夜温15

- 1) 完全発根個体：発根状態が良好で鉢上げ可能な個体
- 2) 不完全発根個体：発根はしているが、根量が不十分な個体
- 3) 未発根個体：地上部は生存しているが、発根の見られない個体
- 4) 枯死個体：発根もせず、完全に枯死した個体
- 5) クラウン部分を葉の基部ぎりぎりまで切りつめた穂を利用

表2 培土の違いが発根率に及ぼす影響（平成10年度）

品種名	処理区	挿し芽時の状態		完全発根 個体率 ¹⁾ (%)	不完全発根 個体率 ²⁾ (%)	未発根 個体率 ³⁾ (%)	枯死 個体率 ⁴⁾ (%)
		挿し穂長 (cm)	葉数 (枚)				
NS1	パーライト	8.1	7.7	60.0	13.3	16.7	10.0
	細粒鹿沼土	8.1	7.6	66.7	20.0	13.3	0
	川砂	8.3	7.0	63.3	23.3	10.0	6.6
NS3	パーライト	8.7	6.2	80.0	10.0	0	10.0
	細粒鹿沼土	8.9	6.2	86.7	0	6.6	6.6
	川砂	9.0	6.1	86.7	6.6	0	6.6

栽培概要と1)～4)は表1と同じ

表3 発根の品種間差（平成10年度）

品種名	完全発根 個体率 ¹⁾ (%)	不完全発根 個体率 ²⁾ (%)	未発根 個体率 ³⁾ (%)	枯死 個体率 ⁴⁾ (%)
NS1	2.7	24.3	67.6	5.4
NS3	78.3	17.4	4.3	0
NS12	74.5	12.8	4.3	8.4
NS14	52.9	41.2	5.9	0
MSR	0	10.5	84.2	5.3

挿し芽日：9月18日

発根剤：オキシベロン液剤200倍に20秒間浸漬処理

1)～4)は表1と同じ

表4 発根剤処理が発根率に及ぼす影響（平成10年度）

品種名	処理区	挿し芽時の状態		完全発根 個体率 ¹⁾ (%)	不完全発根 個体率 ²⁾ (%)	未発根 個体率 ³⁾ (%)	枯死 個体率 ⁴⁾ (%)
		挿し穂長 (cm)	葉数 (枚)				
NS1	発根剤処理なし	8.1	8.5	0	0	96.7	3.3
	発根剤粉剤処理	8.1	7.7	60.0	13.3	16.7	10.0
	発根剤液剤処理 ⁶⁾	8.0	7.5	0	6.7	93.3	0
NS3	発根剤処理なし	8.7	5.9	50.0	20.0	20.0	10.0
	発根剤粉剤処理	8.7	6.2	80.0	10.0	0	10.0
	発根剤液剤処理	8.2	6.3	50.0	0	40.0	10.0

栽培概要と1)～4)は表1と同じ

6) オキシベロン液剤200倍液に20秒間浸漬処理